

【オリコンサルグローバルJV ヤンゴン・マンダレー 鉄道整備事業フェーズ1が起工式
ミャンマー国で施工監理など担当】

ヤンゴン・マンダレー 鉄道整備事業フェーズ1が起工式

オリコンサルグローバルJV

ミャンマー国で施工監理など担当

オリエンタルコンサルタンツグローバルJVが施工監理などを手掛けたミャンマー国における「ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業（フェーズ1）」の8パッケージのうち2パッケージであるCP102（バゴークニャウンレビン間）およびCP103（ニャウンレビン〜タングー間）（円借款供与額450億円）の起工式が11日、ヤンゴン近郊のニャウンレビンにおいて執り行われた。写真。

式典には、タン・ズイン・マウン運輸通信大臣、トウレイン・ウイン・ミヤンマー国鉄総裁、丸山市郎在ミャンマー日本大使、唐澤雅幸JICAミヤンマー事務所長など多数の要人が出席した。ヤンゴン・マンダレー



線（約620キ）は、約130年前から国の経済動脈であり、ミャンマー最大の商業都市ヤンゴン、首都ネピドー、第二の商業都市であるマンダレーを結ぶ重要な交通幹

線となっている。しかし、同線の橋梁、信号等の設備や車両の老朽化が進み、列車走行速度の低下、遅延、脱線事故等が生じており、輸送サービスの低下が課題となっていた。

ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業は、これらの改修・近代化を実施し、旅客・貨物の安全性や輸送能力を向上させ、同国の経済発展に寄与することを目的としたもの。

オリエンタルコンサルタンツグローバルは、14年から開始した同事業フ

エーズ1（ヤンゴン・タングー間270キ）の詳細設計に引き続き、日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、トーニチコンサルタンツ、日本工営とのJVで入札支援、施工監理業務を担当。2区間の施工では、CP102を鉄建・りんかい日産JV、CP103を東急建設が担当する。同事業によって、23年にはヤンゴン〜タングー間の所要時間（旅客）が6時間から3時間に短縮されることが期待されている。